

カタクチイワシ卵稚仔出現状況 (2011. 7- 1)

香川県水産試験場 藤原 宗弘
TEL: 087-843-6511

調査方法

調査日: 7月5日 8:50~11:30 中潮 (備讃瀬戸は7月6日)

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値
2009.7.2	0	3	36	5	2	1	4	0	0	0	0	0	0	-	4.6	3.9
2010.7.2	0	0	4	14	33	29	97	32	2	1	0	0	0	32	19.3	17.4
2011.7.5	0	2	42	1	39	174	14	99	31	2	4	0	0	-	37.1	31.4

【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

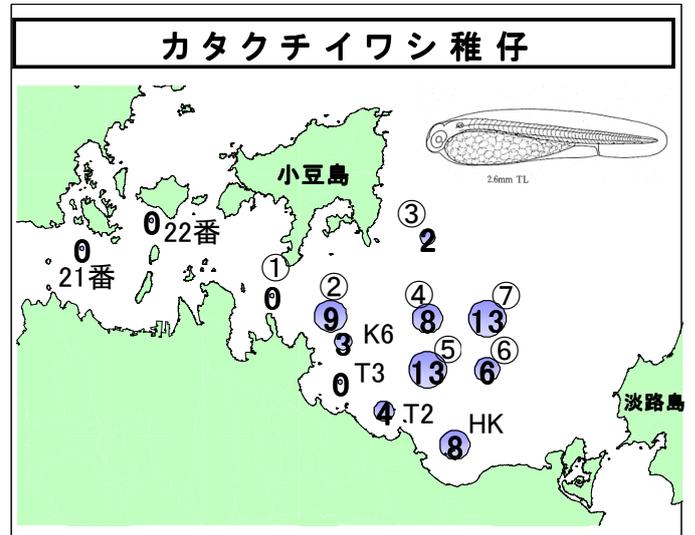
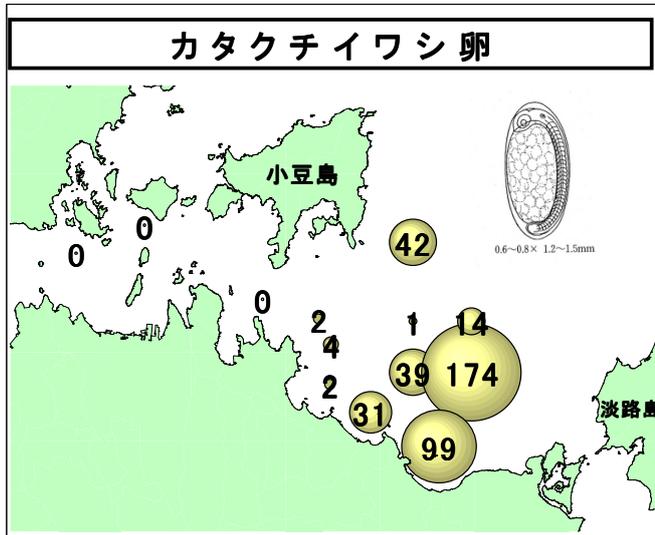
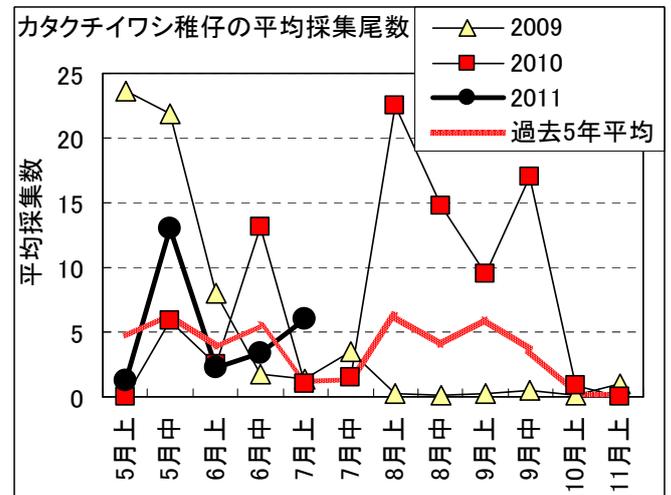
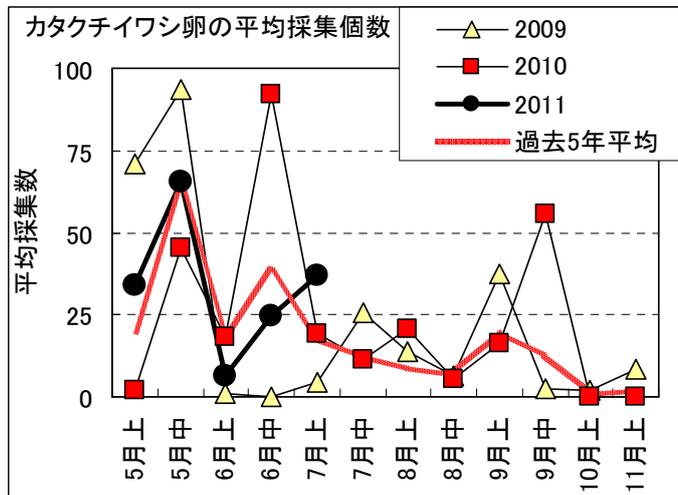
年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値
2009.7.2	0	0	6	3	3	0	1	1	0	1	0	0	0	-	1.4	1.2
2010.7.2	0	0	0	3	5	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1.0	0.8
2011.7.5	0	9	2	8	13	6	13	8	4	0	3	0	0	-	6.0	5.1

* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸を除く)。

* 13点平均値: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点の平均値を表す。

* グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を現す。



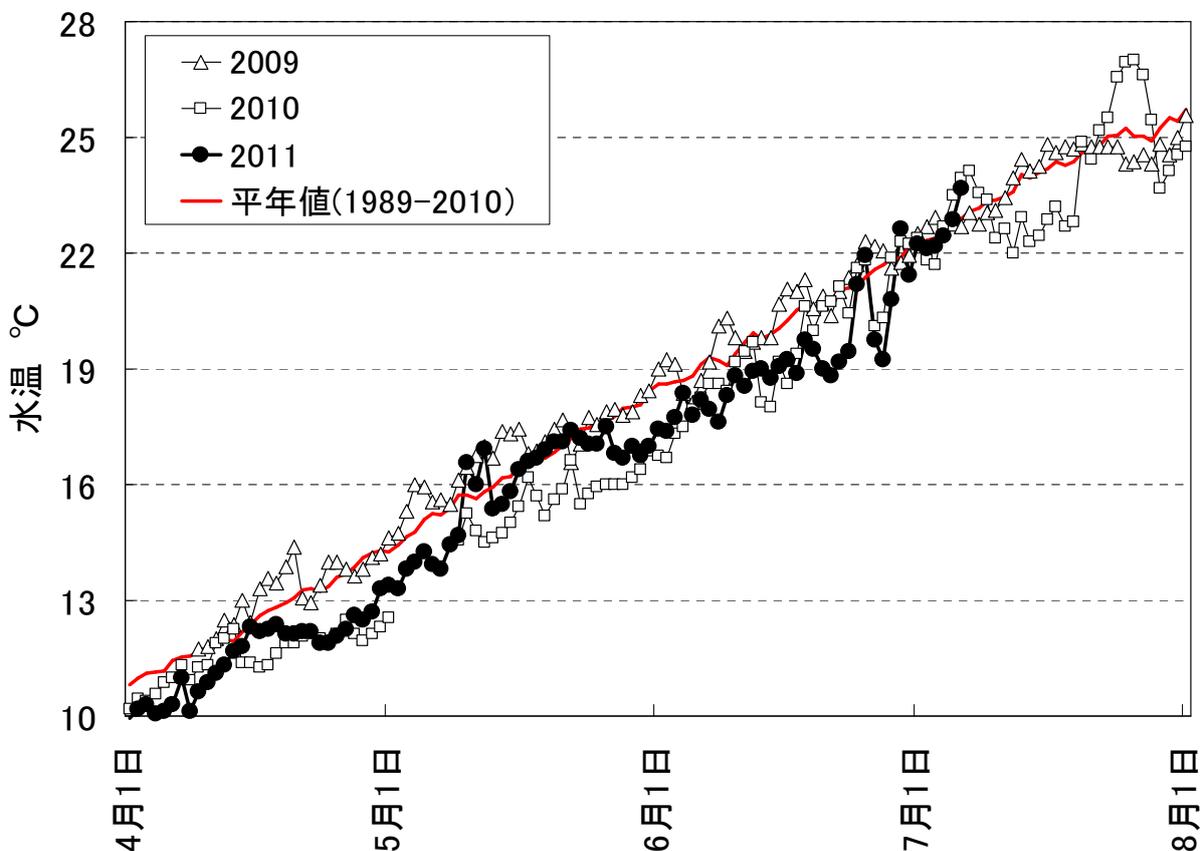
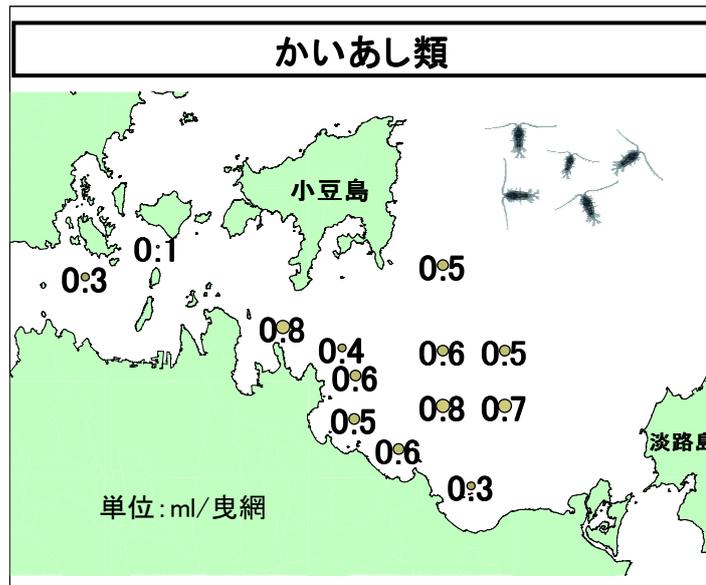
播磨灘11定点における卵の平均出現数は約37個となり、昨年同時期を上まわった。引田の沖合い方向の定点(HK、⑥)での出現が多かった。

一方、稚仔の出現は約6尾となり、昨年同時期を上まわった。稚仔の出現は、沿岸域で少なく、沖合で多い傾向がみられた。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、水温は、6月は平年・昨年度より低く推移していたが、7月に入ってから平年・昨年度と同程度で推移している。

ノクチルカ(夜光虫)が引田沖(④、⑤、⑥、⑦)で優占していたが、着色域はみられなかった。餌料生物として重要なかいし類は、平均的に少なく、11点の平均は前回の3/10程度(0.3倍)とかなり減少した。近隣府県の漁模様もあいかわらず良くなく、今のところかなり低調に推移している。

【参考】



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>